



## デイリー・ジーザス・ニュース #315

金曜日...苦悩と贖罪の日

### イエスの三段階のローマ裁判

ピラトはイエスの無罪を宣言するが、群衆はバラバの釈放を要求する

ルカ23:13-16, 18-19 ( 並行聖書 : マタイ27:15-21、マルコ15:6-11、ヨハネ18:39-40 )

=====

13ピラトは祭司長たち、役人たち、民衆を呼び集めて、14彼らに言った。

「あなたたちは、この男を民衆を扇動する者として私に連れて来ました。私はあなたたちの前で彼を尋問しましたが、あなたたちの告発には何の根拠も見つかりませんでした。15へ口デもそうでした。彼は彼を私たちのところに送り返したのです。あなたたちもご存じのとおり、彼は死に値するようなことは何もしていません。16ですから、私は彼を罰し、その後釈放しましょう。」

総督は祭りの時には、群衆が選んだ囚人を一人釈放するのが習慣だった。当時、バラバという名の悪名高い囚人がいた。彼は町の暴動と殺人のかどで投獄されていた。

群衆が集まってきたので、ピラトにいつものようにして欲しいと頼みました。ピラトは彼らに言いました。

「過越の祭りの時には、わたしが囚人を一人釈放するのが、あなたがたの習慣になっている。MTどちらを釈放してほしいのか。バラバか、それともユダヤ人の王、MTキリストと呼ばれているイエスか。」 MT彼は、MT祭司長たちがMTイエスを自分に引き渡したのは、ねたみからであることを知っていたからである。

ピラトが裁判官の席に座っているとき、彼の妻は彼に次のようなメッセージを送りました。あの無実の男に一切関わらないで」ください。私は今日、彼のせいで夢の中で大変な苦しみを受けました。」

しかし、祭司長たちと長老たちは、バラバの釈放とイエスの処刑を求めるよう群衆を説得した。知事は尋ねました。「2人のうちどちらを釈放してほしいのですか？」

「彼らは一斉に」叫び返しました。」いや、彼ではない！「この男を殺せ！バラバを釈放せよ！」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = <sup>MT</sup>、マーク = <sup>M</sup>、ルカ = <sup>L</sup>、ヨハネ = <sup>J</sup>、使徒行伝 = <sup>A</sup>。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	プラエトリウム: ローマ総督ポンティウス・ピラトの宮殿
タイムライン	4月上旬 ( 39ヶ月目 )
イエスの生涯の文脈	第8段階: 受難週
	E. 金曜日: 苦悩と贖罪の日
	イエスの三段階のローマ裁判
タイトル	ピラトはイエスの無罪を宣言するが、群衆はバラバの釈放を要求する

この聖句は、イエスのローマ裁判の第三段階の始まりです。ヘロデはイエスを有罪とする根拠を見出せず、イエスをピラトに差し戻して処分させました。第三段階はイエスの裁判の中で最も大規模な段階でした。ピラトはイエスを釈放しようとますます躍起になり、ユダヤ人の指導者たちは群衆を扇動してイエスの磔刑を要求しました。イエスの裁判のこの最終段階で、イエスの死の意味に関する多くの重要な真理と洞察が明らかになりました。

物語は、ピラトがイエスのいかなる罪も免責する二度目の声明から始まりました。ピラトは、ヘロデもイエスに何の罪も見出さなかったと付け加えました。これで、イエスの無実が三度証明されたこととなります。さらにいくつか続きます。福音書記者たちは、イエスが何の罪もない義人であり、偽ってイエスを告発した者たちの不義のために死んだことを明確にしました。

ピラトはまた、イエスの置かれた状況の皮肉さを私たちにも明らかにしました。主はローマに対する反乱を扇動したという不当な罪で告発されました。そのため、ピラトはイエスを罰し、釈放することを決断しました。この「罰」は、イエスの敵であるサンヘドリンをなだめるための政治的な口実として意図されていました。釈放は、イエスの法的および道徳的無罪を示すもう一つの証拠でした。

ユダヤ人がイエスではなくバラバを選んだという皮肉は、驚くべきものでした。イエスは、この地域の二つのローマ当局によって反乱分子ではないと宣言されていました。一方、バラバは殺人者であり、反乱分子であり、他者を反乱に導く指導者でした。バラバこそ、サンヘドリンがイエスを偽って告発した人物の正体でした。そのため、ピラトは民衆がバラバではなくイエスを選ぶだろうと確信していました。それは当然のことでした。バラバを選ぶことは、もし次回反乱分子がより大きな成功を収めた場合、ローマによる殺人、騒乱、そして大量破壊を招く可能性を孕んでいたのです。

群衆がイエスではなくバラバを選んだことが信じられないと思うなら、もう一度考えてみてください。あの選択は、私たち共通の罪深さの縮図でした。人々は常に、イエスと共に過ごす永遠よりも、悪魔のために特別に用意された場所、地獄で悪魔と共に過ごす永遠を選んでいるのです。

神の意志に反抗し、神を拒絶するあらゆる行為は、私たちの内に宿るバラバ―私たちの罪深い性質―がイエスを拒絶することなのです。イエスを拒絶した群衆の狂気は、私たちすべてを欺く罪を力強く明らかにしました。

福音書全体を通して、ピラトの大きな欠点、すなわち人間への恐れが強調されています。ピラトはイエスの無実をはっきりと見抜いていました。これは、ピラトよりもはるかに卑劣なヘロデ・アンティパスによっても裏付けられました。総督は、祭司長たちがイエスを卑劣な仕打ちをした動機となった憎しみと嫉妬を正しく見抜いていました。彼の妻はイエスについて予感を抱いており、イエスの義について警告しました。

ピラトはローマの全権力を背後に持っていた。しかし、彼には正しいことを行う道徳的勇気がなかった。彼の心の葛藤、そしてイエスを守ることの最終的な失敗は、以下の朗読を通して明らかになっていくだろう。

罪のない神の御子を偽って告発する罪深さ、イエスではなくバラバを選ぶ罪深さ、神よりも人を恐れる罪深さ―これらをはじめとする、私たちの罪深い性質の多くの表れが、イエスの試練の物語に深く浸透しています。闇は今後ますます濃くなるばかりです。それとは対照的に、イエスの輝かしい正義は、すべての節で明るく燃えています。私たちの心はただ叫ぶしかありません。

「主よ、あなたは美しい！」

応用：

主を裏切っていると分かっているにもかかわらず、群衆に従ってしまうことがありますか？この聖句は、そのような行動についてあなたに何を伝えているのでしょうか？

イエスは誰の助けも受けずに義の道を歩まれました。イエスの力は父と聖霊の御前にありました。この例は、あなた自身の力の源について何を教えてくれるのでしょうか。

あなたは今日、主の試練と苦しみにおける美しい模範をどのように讀めますか。